

一般社団法人循環経済協会 主催セミナー
「循環経済型ビジネスを実現するバリューネットワークの作り方」
(抄録)

当協会は、「循環経済型ビジネスを実現するバリューネットワークの作り方」セミナーを開催致しました。循環経済型ビジネスでは、自社単独で完結するのではなく、商業取引以外の関係性も含むバリューネットワーク（価値創出のための企業・団体による新たな連携網）を構築することが重要とされています。バリューネットワークの重要性は国際的にも認識されており、ISO/TC323（循環経済）からは、従来のかたちからバリューネットワークへの移行について規定した ISO59010、また循環経済に資するバリューネットワークの優良事例を整理した ISO/TR59032 が発行されたところです。同 TR は日本が主導して作成したものであり、日本の事例も取り上げられています。一方、バリューネットワークという概念やバリューネットワークをどのように構築したらよいか等は広く認識されていない状況にあります。本セミナーは、バリューネットワークの優良事例をもとに、バリューネットワークの構築方法、バリューネットワークの構築や維持における課題、及びバリューネットワークにおける新たな付加価値（新事業）創出の可能性等を議論致しました。また、講演やパネルディスカッションに対して参加者から多くの質問を頂きました。

（なお、ISO/TC323（循環経済）における審議経過の概要は、当協会ホームページで公開しているアニュアルレポートからご確認頂くことができます。）

- 日 時 令和 6 年 8 月 23 日（金） 13:00～18:00
- 場 所 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング東京本社/Zoom（ハイブリッド形式）
- 主催 （一社）循環経済協会
- 後 援 経済産業省
環境省
（一財）日本規格協会
（一社）日本経済団体連合会
（一社）産業環境管理協会
（一社）資源・素材学会包括的資源利用システム部門委員会
レアメタル研究会
早稲田大学オープンイノベーション戦略研究機構循環バリューチェーンコンソーシアム
- 参加人数 対面参加：約 30 名（時間帯で変動あり。参加登録者は約 40 名）
オンライン参加：約 180 名（時間帯で変動あり。参加登録者は約 260 名）
- プログラム
15:05～15:30 循環経済型ビジネスとバリューネットワーク～ISO/TC323 等における議論の動向～
多摩大学 ルール形成戦略研究所 客員教授
ISO/TC323/WG2 コンビーナ
循環経済協会招聘研究員
市川 芳明 氏
- 15:35～16:45 パネルディスカッション

モデレーター：市川 芳明 氏（多摩大学／循環経済協会）

パネリスト：磯原 豊司雄 氏（日本製鉄）

田島 章男 氏（パナソニックホールディングス／パナソニックETソリューションズ）

谷 明人 氏（JX 金属／JX 金属戦略技研）

堂坂 健児 氏（本田技研工業）

張田 真 氏（循環経済協会）

17:00～18:00 名刺交換会・意見交換会

1. 循環経済型ビジネスとバリューネットワーク～ISO/TC323 等における議論の動向～

多摩大学ルール形成戦略研究所客員教授/循環経済協会招聘研究員

市川 芳明 氏

- ISO/TC323（循環経済）設立の背景には、サービスの付加価値を高めることで、製造業が集積していなくとも優位に立てる経済構造への転換を図る欧州の産業戦略がある。欧州と異なる産業構造を持つ日本は、欧州主導の循環経済に対する戦略をたてる必要がある。ISO/TC323 から5月に出版された3つの国際規格及び技術報告書（ISO59004 (Vocabulary, principles and guidance for implementation)、ISO59010 (Guidance on the transition of business models and value networks)、ISO59020 (Measuring and assessing circularity performance)、ISO/TR59032 (Review of existing value networks))のうち、日本はISO59010及びISO/TR59032の出版を主導した。
- ISO59004は循環経済の定義、ビジョン、原則等を規定する。ISO59004は循環経済を「持続可能な開発に貢献しながら、資源の価値を再生、保持、または付加することによって、資源の循環的な流れを維持するための包括的なアプローチを用いる経済システム」と定義しており、「価値」の再生等にも着目している。これは、単に「物質」の再生を目的とした3R（リデュース、リユース、リサイクル）政策が想定するシステムとは異なる。ISO59004では、他にも「製品」「サービス」「廃棄物」等、循環経済に関連する用語が定義されている。
- ISO59010は、ビジネスの観点から、組織（群）が循環経済型ビジネスモデル／バリューネットワークへ移行するためのガイダンスを提供する。ISO59010では、より実践的な移行を実現させるため、組織（群）がバリューチェーン／バリューネットワークのマッピングと（境界としての）スコープを設定することを強調している。また、リニア（線形）バリューチェーンからサーキュラーバリューネットワークへの移行の考え方やバリューネットワークの優良事例等も提示している。他にも、循環経済における経済合理性やマテリアリティ（重要課題）にも言及している。
- ISO59020は、循環性（Circularity）を評価する指標及び評価枠組み等を規定する。ISO59020では、対象システムのすべての資源のインフロー（inflow）とアウトフロー



ー (outflow) の定量化が要求事項として定められた。その他、任意で定量化する指標として、エネルギー、水、経済に関する指標が提示されている。

- 欧州は法令で規格 (EN 規格 (欧州統一規格) や ISO 規格) を引用することがある。総論的な権利や義務等は法令で定め、具体的な基準等は規格で定めるような方法をとることがある。こうした方法は日本でも参考にできる部分がある。
- 日本はバリューネットワークの具体化に向けた新たな標準化に向けて動き出そうとしているところである。

2. パネルディスカッション

モデレーター : 市川 芳明 氏 (多摩大学/循環経済協会)

パネリスト : 磯原 豊司雄 氏 (日本製鉄)

田島 章男 氏 (パナソニックホールディングス/パナソニック E T ソリューションズ)

谷 明人 氏 (JX 金属/JX 金属戦略技研)

堂坂 健児 氏 (本田技研工業)

張田 真 氏 (循環経済協会/株式会社 HARITA)

- 循環経済型ビジネスを実現するバリューネットワークの在り方について議論が行われた。各企業の取組の紹介があり、既存の枠組みを超えた情報流通プラットフォームの構築等による新しい価値創造が重要であるとの見解が共通して示された。
- また、素材や製品ごとにバリューネットワークのあり方が様々であることが言及されたほか、最終製品メーカーにおいては、リサイクルされた素材の価値を最大化させるだけでなく、製品・部品としての付加価値を最大限活用すること (修理、再製造、シェアリング等) も同時に検討する必要があるとの見解が示された。これらを実現するには、多様な主体との協力が不可欠であり、主体間で相互利益を享受できるようなバリューネットワークの設計が求められるとの意見が出された。
- さらに、バリューネットワークで (効率的な) 事業者間連携を確立し、また新たな価値を生み出すためには、地域資源や伝統産業等の地域特性を活かすことも重要であるとの意見が出された。
- 次に、循環経済型ビジネスを実現するバリューネットワークを構築するうえでの課題について議論が行われた。根本的な課題として「循環経済とは何か」を社会に対して明確に提示すべきとの見解が示された。ISO 規格で循環経済の定義等は定まってはいるが、多様な主体による連携 (バリューネットワーク構築) を促すためには、具体的な指標を定めることが重要であるとの意見が出された。さらに、今後はバリ



ューネットワーク単位での評価を実現する新しい指標や評価枠組みも必要になるとの指摘もあった。

- また、循環経済型ビジネスモデルへの移行に不可欠なバリューネットワークの構築・維持のためには、バリューネットワークに参画する多様な主体における相互利益の享受（win-winの関係）が求められるため、バリューネットワークにおける価値分配／コスト分担に関する検討が必要であるとの見解も示された。そのためには、バリューネットワークのとりまとめを行う主体（例えば情報流通プラットフォームの管理・運営を行う主体等）の存在が重要であるとの意見が出された。
- さらに、バリューネットワークには多くの主体が存在するなか、取引の多くの場面で品質等の保証（有害化学物質や忌避物質等が含まれていないことの保証等）が求められるため、トレーサビリティの確保が重要であるとの見解が示された。特に、「廃棄物」ではなく「有価物」として取引される場合には、現行はマニュフェストシステムの対象外であるため、情報の入手が困難であるとの問題も指摘された。
- 質疑応答では、再生材の価値がバージン材の価値より高くなる可能性があるかとの質問があった。パネリストからは、EUの規制等（ELV規則等）により再生材の価値が高まる可能性があるほか、きちんと品質管理された再生材であれば高い価値を維持できる可能性があるとの見解が示された。また、消費者に再生の価値を感じて貰えるが重要との意見が出された。

3. 閉会宣言

一般社団法人循環経済協会 会長
中村 崇

- 本日の議論、循環経済の実現に必要な多くの課題を見つける有意義な機会となった。当協会では、バリューネットワークに関する新たな標準化に向けた検討や議論を進めていくほか、本日の議論であがった課題等を検討に含めていきたい。また、本日のセミナーだけでは十分に議論しきれない部分もあるため、今後も本日のような議論を促す場を積極的に企画していきたい。

